

1 学校教育目標

- 1 礼儀を重んじ他を思いやる生徒（徳）
- 1 自ら考え創造する生徒（知）
- 1 心身を鍛え根気強く成し遂げる生徒（体）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○生徒一人一人の資質と能力を伸ばす学校 ○教師が常に指導力の向上を目指す学校 ○生徒・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○自尊感情と自己肯定感の高い生徒 ○礼儀正しく、他者には優しく自己に厳しい生徒 ○努力と挑戦を重ね、粘り強く学ぶ生徒 ○自ら考え判断し行動できる生徒
○教師像	○教育公務員として使命を自覚し、その職責を果たすことのできる教師 ○常に自己の指導力の向上と生徒理解に努め、研鑽に励む教師 ○教育への情熱と生徒への深い愛情があり、豊かな人間性を身に付けた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学力向上

全教員による授業改善・改革を実践することが課題である。学力の向上のみならず【育成すべき資質・能力の3つの柱】を意識した授業を展開していくことが必要である。何を理解しているか、何ができるようになったかを検証しながら、理解していること・できることをどのように使うかの視点に立った評価の方法も改善し、「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる主体的な学びに努めていく。国語・数学・英語については、教科指導専門員の指導により授業力の向上を図る指導を得られ、効果が確認されてきている。3年間での教師との信頼関係を築くことができる学校となっている。

2 不登校・不適応対応

不登校出現率が2%台前半で推移していることは成果である。特にSSWとの連携により、関係諸機関との解決方法をみつけ様々な課題に対応できたことは成果である。SC、SSWと連携した保護者支援も継続的に行っている。特別支援教室も開設され効果検証を行いながら発展させていく。不登校生徒数の減少に向け改善を図るために修学支援委員会を更に発展させていくことが課題である。

3 生徒指導の充実

個別に支援の必要な生徒が複数存在し、授業中においても相乗的にマイナス行動し指導が入らない場面が散見される。その場の現象にとらわれた指導を行うことも多く、指導に時間がかかることもあった。正しい行動を行っている生徒も多数いることから、それらの生徒を伸ばしながら集団としての成長を図っていくことが今後随時すすめていく。一人一人の教員が生徒一人一人の生育環境などを理解し、より個に応じた指導を展開できるスキルを身に付けていくことが求められる。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	不登校・不適応対応	○	○	○	○	○
3	教師の指導力の向上	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標正答率・通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査の結果向上と授業改善		<ul style="list-style-type: none"> 年度末到達度確認テスト 正答率 63.0% 令和3年度目標 区調査 通過率 60.0% 		<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>		年度末に掲載		<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	
B 目標実現に向けた取組									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業力の向上	全教科	通年	足立スタンダード授業の習得 学校及び学年共通指導の実践 教科指導専門員の指導・助言 ・授業分析（通年） ・板書撮影と発問記録による 授業分析 管理職の授業評価と指導・助 言 授業ビデオ撮影の実施	生徒の学びの スタイルアン ケート実施 管理職と教科 指導専門員に よる効果検証 授業3教科実 施	生徒アンケート 授業理解度 80% 授業意識調査 肯定的評価 80%	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	年度末に掲載	<div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>

2改善	各種学力調査の分析に基づく補習	5教科	通年	<p>【指導体制】 全教員による分析と対応</p> <p>【取組みのねらい・目的】 基礎・基本的な知識の着実な定着と主体的な学びの定着</p> <p>【使用教材】各教科の教員が教材を作成して使用する。 ○放課後補充教室の実施 区調査目標地未通過者 ・人選「あと2~3問正答すれば目標値通過生徒対象 無回答設問に着目 ・中間層の無回答者を人選 無回答設問に対応した補充を行い未定着の改善を図る。</p>	<p>各学力調査の終了後すぐに分析を実施。</p> <p>2月に到達度テストを実施し通過率の向上を見る。</p> <p>2月再調査を実施し無回答数の減少と正答への向上。</p>	<p>それぞれの調査で、正答率を前年より上げる。</p> <p>2月に到達度テスト結果正答率の向上10%</p> <p>無回答者の減少50% 正答への変化20%</p>			
3改善	家庭学習ノート	任意の教科	毎日	<p>【指導体制】 全学年全学級で実施</p> <p>【取組のねらい・目的】 学習習慣を身に付け、確かな学力の定着を図る。</p> <p>【使用教材】 学校での学習教材 学力中間層以下の生徒 授業で学習した内容についての復習を中心とした内容とする。</p>	<p>○家庭学習ノートの提出率</p> <p>○「学習習慣」「学力向上」について自己評価させる。</p> <p>○家庭学習ノートが授業内容とマッチしているか確認させる。</p>	<p>○全校での提出率80%以上</p> <p>○「学習習慣の定着」「学力向上への影響」と肯定的な回答90%以上。</p> <p>○家庭学習で学校の授業内容の実践70%。</p>		年度末に掲載	
4新規	放課後補充学習 25分×週4回	5教科	月火木金 25分×週4回	<p>【指導体制】 全学年の教員</p> <p>【取組のねらい・目的】 学習習慣を身に付け、確かな学力の定着を図る。</p> <p>【使用教材】 学力中間層以下の生徒 タブレット端末を使用 Eライブラリーにある教材 未定着学習内容と復習を中心とした内容とする。</p>	<p>定期的な確認テスト等を実施する。</p> <p>2月到達度テストを行う</p>	<p>生徒アンケート肯定的回答80%</p>			

重点的な取組事項－2		不登校・不適応対応			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒一人一人の心の教育		学校評価による数値の向上		年度末に掲載	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
○心の教育の充実 ○いじめ防止 ○道徳授業の充実	・学校評価による心の育成についてB評価以上90% ・自己肯定感の調査で、肯定的評価の生徒90% ・いじめ防止活動アンケート集計肯定的評価90%	○QU調査年間実施2回 ○生徒会と保護者地域連携あいさつ運動 ○生徒会「いじめ根絶」活動の実施 ○外部指導者を招きオリパラ教育や特別授業を実施 ○道徳公開授業の充実		年度末に掲載	
○不登校児童への対応	・学校評価「子供は六月中の生活に満足している」項目B以上90% ・不登校生徒の登校支援をすすめる継続的な関係づくりと定期面接の実施	○特別支援委員会とケース会議の計画的実施 ○SSW、SCの有効活用 ○学校での居場所づくり ○保護者、地域関係者との連携			
○全校体制での生徒への個別支援	修学支援委員会の年間35回以上実施	○毎週木曜3校時に修学支援委員会を実施 ○SC・SSWと不登校、不適応生徒の情報の共有化を図る。 ○特別支援教室との個別支援の連携充実を図る。			
重点的な取組事項－3		教師の指導力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
教師一人一人の指導力向上		教師一人一人の指導力向上について下記の2項目を達成する		年度末に掲載	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
資質・能力の向上	都 OJT ガイドラインで求められている経験年数、職層に応じた目標の達成 ・基礎形成期の目標達成 ・職層に応じた職務の遂行 ・共通理解と共通行動	○校長主催研修の定期実施 ○転入・新規採用教員研修の実施 ○自己申告書授業参観、面接を重視 ○区中研への全員参加 ○都研修センター主催研修への参加 ○教師道場公開授業参観と校内還元公開授業の実施			
指導力・授業力の向上	・授業の基本の確立 ・統一された学びのスタイルの習得と確立 ・管理職による授業評価 4段階 B以上 90%以上 ・児童の授業満足度 90% ・保護者授業参観アンケート「改善を要する」5%以下 ・学校評価項目 90%	○足立スタンダード授業の習得と実践 ○学校及び学年共通指導 ○教科指導専門員の指導助言 ・授業分析（通年） ・板書撮影と発問記録による授業分析 ○特別活動の充実 ○年間区中研への全員参加 ○都主催研修への参加 ○指導教諭公開授業参加と校内還元研修の実施		年度末に掲載	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

年度末に掲載

(3) その他（学校教育活動全般について）